

# 四国がんセンター 医療情報管理室の紹介 院内がん登録業務を中心に

檜崎千明 大平由津子 大西純子 百濟静香 菅美保 濱田信 寺本典弘  
四国がんセンター 医療情報管理室

## がん登録専門部会での役割と院内がん登録業務

今回、当医療情報管理室のがん登録専門部会としての役割と自院の院内がん登録の業務について報告する。  
四国がんセンターは愛媛県松山市に位置しているがん専門病院である。病床数 368床（2022年7月現在）、外来患者数 119,677名（2021年延べ総数）、入院患者数 100,849名（2021年総数）、院内がん登録件数 2,401件（2021年診断症例）である。愛媛がん診療連携拠点病院として、愛媛がん診療連携協議会を主宰している。医療情報管理室には診療情報管理士7名、事務員2名、医師2名が在籍しており、診療情報管理士が院内がん登録実務者として中級認定3名・初級認定3名・認定なし1名で院内がん登録と診療情報管理業務を兼務（院内がん登録専従1名）している。また2022年には日本がん登録協議会の病院会員となった。がん登録専門部会のグループ活動においてもリーダーを担い、愛媛県全体の取りまとめを行っている。



## がん登録専門部会の活動

当医療情報管理室が中心となる愛媛がん診療連携協議会・がん登録専門部会では、がん登録専門部会の活動内容を検討する活動検討委員会の運営を行っている。愛媛がん診療連携協議会の事業でがん登録専門部会は愛媛県の院内がん登録データの集計を行い、『がん登録でみる愛媛のがん診療』と題して愛媛県全県集計をWeb公開、施設別の集計をISBNコードを取得した書籍として刊行している。また、毎年、実務者のスキル向上を図られるようプログラムの工夫を行いながら、当院が主催で講師をお招きし『がん登録実務者のための5大がん登録講座』を開催している。2023年1月に第10回記念大会を開催した。がん登録を行う上での標準的なルールの振り返り、新しいルールの確認および各部位の解剖・がん登録をする上での注意事項など、さまざまなテーマを決め、講義を行い、スキルアップを図っている。がん登録専門部会内でやっているグループ活動にも積極的に参加し、拠点病院として他施設と交流を図り、自施設のみならず、愛媛県全体のスキル向上に向けて活動を行っている。

<p><b>【冊子『がん登録でみる愛媛のがん診療』の作成】</b> [2022年度] 講師 江森 佳子先生 国立がん研究センター 長谷部 昌先生 四国がんセンター 寺本 典弘先生 四国がんセンター 申込人数 312名（愛媛県内52名 愛媛県外260名） テーマ ・多重がんルールの概論と演習 ・2022年症例からの登録ルール変更について ・がん登録に役立つ内視鏡検査・内視鏡治療の知識 ・がん登録に役立つ病理診断の知識</p> <p>[2021年度] 第1回 講師 江森 佳子先生 国立がん研究センター 申込人数 131名（愛媛県内：53名、愛媛県外：78名） テーマ ・標準登録様式 登録の変更点・注意点について</p> <p>第2回 講師 塚田 剛一郎先生 国立がん研究センター 申込人数 124名（愛媛県内：51名、愛媛県外：73名） テーマ ・「院内がん登録」と「全国がん登録」の違いについて ・多重がん登録のルールの使い方と注意点 ・SNSの活用について</p>	<p><b>【がん登録専門部会グループ活動 2022年度】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・試験対策企画 初めて院内がん登録認定試験を受ける方向けの試験対策の情報交換の場を企画する</li> <li>・がん登録実務者の育成方法 新人育成に携わる方向けの指導方法や施設で困っていることの相談の場とするグループ</li> <li>・院内がん登録データ活用 冊子作成や院内がん登録データの活用を促す活動を行うグループ</li> <li>・E-Breeze 昼休線を利用して、愛媛県内の施設と交流し、情報交換を行える時間を提供するグループ</li> <li>・日常業務悩み相談 がん登録業務にて日頃の悩み事を気軽に相談できるメーリングリスト</li> </ul>
--	---

## 院内がん登録委員会の取組み

『院内がん登録の実施に係る指針』に基づく院内がん登録委員会を年2回行い、病院幹部へ人員確保の相談、病理医・放射線科医へ実務者が診断所見で困っていることの指摘等を行い、院内がん登録の円滑な実施を図っている。全国集計提出後は医局会・幹部会等において集計報告を行い、データ活用を促すアクションを行っている。

<p><b>【院内がん登録委員会の構成員】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・副院長代行[委員長]</li> <li>・臨床研究センター長</li> <li>・臨床研究推進部長</li> <li>・臨床研究がん予防・疫学研究部長</li> <li>・医療情報管理室室長</li> <li>・がん検診科医長</li> <li>・臨床疫学研究室医師</li> <li>・看護師長</li> <li>・管理課長</li> <li>・診療情報管理係長</li> <li>・診療情報管理士</li> </ul>	<p><b>【院内がん登録委員会の主な議題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・委員会規定の改定および定例報告</li> <li>・定例報告：             <ul style="list-style-type: none"> <li>・院内がん登録実施体制</li> <li>・院内がん登録実務者の研修参加状況</li> <li>・院内がん登録業務作成状況・品質管理</li> <li>・生存確認状況・データ利用実績</li> <li>・個人情報・情報セキュリティの取り扱いについて</li> </ul> </li> <li>・症例報告</li> <li>・ケースファインディングについて</li> <li>・登録項目の追加について</li> <li>・院内がん登録データベース計画について</li> </ul>	<p><b>【医局会・幹部会での報告】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・症例報告として、医局会や幹部会等において報告を行い、冊子『がん登録でみる愛媛のがん診療』を配布し、データの活用を促している</li> </ul>
---	---	--

## ケースファインディングと登録データチェック

病歴管理時（入院患者全数）、外来がんの抽出、病理診断、放射線治療歴からケースファインディングを行っている。登録ではHoscanに直接データを入力するのではなく、MILシステムに蓄積しHoscanにデータ移行する方法を取り入れ、データチェックとして一次登録者と二次登録者でダブルチェックを行っている。初級者も部位全般を登録し、中級者が二次チェックを行う。二次チェックで間違いがあれば修正内容を一次登録者へフィードバックする体制を取っている。

<p><b>【院内がん登録の業務フロー】</b></p>	<p><b>【ケースファインディングの手法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・病歴管理時（入院患者全数） 退院後、病歴管理を行う際に入院患者全数に対して、目視にて対象かどうかを確認する</li> <li>・外来がんの抽出 「初診科」算定かつ入院歴のない患者からの見つけ出し</li> <li>・病理診断 病理所見より組織診断名を一覧にし、癌と診断されているが、院内がん登録されていない症例を抽出する</li> <li>・放射線治療歴 放射線治療を受けた患者一覧より院内がん登録されていない症例を抽出する</li> </ul>	<p><b>【2021年症例ケースファインディング結果】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・外来がん 177件</li> <li>・組織診 34/725 [食道・胃・大腸が多かった]</li> <li>・細胞診 1/123</li> <li>・放射線治療歴 2/264</li> <li>【他疾患で定期通院中のケースがあった】</li> </ul> <p><b>【病理診断データからのケースファインディングに用いたキーワード】</b></p> <p>“high grade”を含む and “CIN”を含まない “malignant” “Prasmacytoma” “sarcoma” “CIN3” “lymphoma” “malignancy”を含む and “no malignancy”以外 “GIST” “VAIN3” “Group5” “carcinoma”</p>
------------------------------	--	---

## データ精度向上に向けての院内の取組み

登録データのダブルチェックを行うことで精度向上を図っているが、症例ごとに解決させていたため全体としての効果を測定する指標がなかった。2023年の取組みとして、指標フラグを設け、ダブルチェック・フィードバックの効果等の解析予定である。

<p><b>【一次登録者の指標】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>0 確認事項なし（登録者のみで登録票を完了）</li> <li>1 SNSで確認（SNSの回答を根拠に登録者のみで登録票を完了）</li> <li>2 実務者間で登録内容を確認</li> <li>3 主治医・病理医・放射線科医など医師に登録内容を確認</li> <li>4 がん登録について熟知している医師に確認</li> <li>5 回答閲覧（確認事項なしではあるが、登録者が後日ピックアップしたい場合に選択する。指標としては、0と5は同義として扱う）</li> </ol>	<p><b>【二次登録者の指標】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>0 確認事項なし</li> <li>I 軽微な誤入力があり、二次登録者が修正を行った</li> <li>II 登録者に内容確認を依頼し、確認後修正を行った</li> <li>III 主治医・病理医・放射線科医など医師に登録内容を確認</li> <li>IV がん登録について熟知している医師に確認</li> <li>V その他</li> </ol>	<p><b>【評価・指標方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・登録者自身が自己分析し、問題点を把握し、課題の設定、解決方法を検討する</li> <li>・院内全体で全国集計提出後に指標の解析を行い、評価をする</li> </ul> <p><b>【解析例】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・登録者のみで完了し、修正なく提出に至った件数</li> <li>・登録者のみで完了したが、修正が必要となった件数</li> <li>・登録完了に医師の確認が必要となった件数</li> <li>・上記の各人種別の件数</li> <li>・他者との比較</li> <li>・個人での年別の比較</li> </ul>
--	--	--

参考：愛媛がん診療連携協議会 がん登録専門部会HP ([https://ecch.jp/?page\\_id=63](https://ecch.jp/?page_id=63))  
日本がん登録協議会 第32回学術集会 COI開示 筆頭演者名：檜崎千明 当演題発表に關し、開示すべきCOIはありません。